

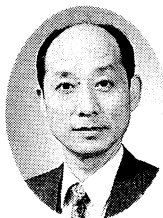


Title	センターレポート第16号によせて
Author(s)	黒田, 英夫
Citation	センターレポート, 16, pp.1-2; 1997
Issue Date	1997-03
URL	http://hdl.handle.net/10069/25670
Right	

This document is downloaded at: 2019-02-22T10:54:39Z

1. 巻頭言

センターレポート 第16号によせて



長崎大学総合情報処理センター長
黒田 英夫

kuroda@ec.nagasaki-u.ac.jp

平成8年4月、小山純先生の後をついで長崎大学総合情報処理センター長に就任致しました黒田英夫です。微力ではございますが、運営委員の先生方、ネットワーク運用専門委員の先生方ならびにセンターの職員の方々のお力添えを頂きまして、なんとか職務を全うしたいと思っております。何卒ご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

平成8年度、総合情報処理センターでは、平成7年度の2次補正予算によるATMネットワークの敷設・立ち上げに引き続き、計算機システムのリプレースを行いました。

新しい計算機システムにつきましては、全学教育の目玉の一つとして取り上げられている一般情報処理教育の重要性から、一般情報処理教育実施専門委員会より70～80名の情報処理演習が同時に実施できるパソコン端末室が2カ所以上必要との認識のもと、そのための環境整備が強く要望され、運営委員会でのご審議・決定に基づき、70～80台以上の端末室を2カ所設置しております。1カ所は従来からのセンター内の第一端末室がありますが、それ以上は、これまでのセンター建屋内ではそのスペースはありません。このため、現在要求しているセンターの増築がなされるまでの仮住まいとして、地域共同研究センター内の一部を改修して頂き、一時借用させて頂いております。この部屋の改修もリプレースの時期に間に合わせて頂き、お陰様で平成9年1月から稼働開始しております。関係各位のご協力に感謝申し上げます。ただ、この仮住まいの端末室がある地域共同研究センターと総合情報処理センターは距離的に大分離れております。計算機ネットワークは、ユーザの立場として単に利用する限りにおきましては、時間と距離を克服できる究めて有用な手段であり、距離的に離れていることは何ら支障を来さないものであります。しかし、単にユーザとしてでなく、保守・管理する立場からは、物理的に距離が離れているということは大きな問題となります。例えば、センターから離れた場所の端末室で何か障害が発生した場合、時には大きくて重い装置を運ぶ必要もあり、授業中など急を要するような場合には究めて深刻な事態を引き起こしかねません。もとより、センター職員一同精一杯努力する所存ではあります。利用される先生方や学生達に時としてご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。仮住まいでの一時凌ぎであるということにご理解を頂き、ご協力のほど宜しくお願い致します。そして、できるだけ早く、総合情報処理センターの近くに端末室の増築がなされるよう、関係各位のお力添えを賜りますよう、併せてお願い致します。

また、このリプレースにより、計算機システムの能力が大幅にアップされました。これ

を機に新年度より、希望する学生に対して全てIDを発行する予定しております。現在は就職情報を企業がインターネットを介して発信する時代であり、世の中では、就職情報を公平に収集できる状況になったと言われております。このような状況において、本学の学生が遅れをとることなく就職活動を行ったり、あるいは世界に向けての情報発信を行うことができるように総合情報処理センターとしてもお手伝いができることとなります。しかし、それと同時にインターネットを利用する上でのモラルの教育など重要な問題も生じてきます。このように、新たな対応にも迫られることとなりますが、可能な限りの対策を立てることとし、全学の職員並びに学生に多いに利用して頂けることを願ってやみません。

また、研究用途に対して利用料金の大幅な低減も予定しております。さらに、新計算機システムは処理能力が大幅にレベルアップしていますので、その点から見ても、実質的に大幅な利用料金の低下となっております。このように、処理の高速化による使い勝手の良さに加えて、利用料金の低下も実施致します。新計算機システムを、思う存分研究に活用して頂けることを願っております。

このように、長崎大学総合情報処理センターでは、時代に即したネットワークおよび計算機システムの提供に日夜邁進しておりますが、何分にも限られた要員で行っております。全学のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。